

RI第2820地区
土浦ロータリークラブ
創立 1958年2月14日
承認 1958年3月 7日

RI第3520地区
姉妹クラブ
台北陽明扶輪社



TSUCHIURA WEEKLY REPORT

会長 鈴木 實 幹事 円城寺 紘征 【URL】 <http://www.tuchiura-rc.org> 【E-mail】 office@tuchiura-rc.org
事務局：土浦市中央2-16-9（常陽銀行4F） 【TEL】 029-822-1250 【FAX】 029-824-8830

2006年～2007年度 国際ロータリーのテーマ



「日の出（霞ヶ浦総合公園より）」

RI（国際ロータリー）の創立：1905（明治38）
日本のロータリー創立：1920（大正 9）

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

RI会長

ウィリアム・ビル・ボイド

率先しよう

（LEAD THE WAY）

2006～2007年度

1月第1例会プログラム

1月11日（第2412回）

点鐘
国歌斉唱
ロータリーソング
ビジター紹介
会長挨拶
亥年会員紹介
誕生祝、結婚記念祝
幹事報告、委員会報告
会食
卓話

にこにこBOX
出席報告
点鐘
ロータリーソング

会長
奉仕の理想
親睦活動委員会

親睦活動委員会

「今年の運勢」
佐藤 二郎 会員
S.A.A
出席委員会
会長
それこそロータリー

格調高く、和やかに

1月はロータリー理解推進月間です。

先週の例会報告

1. 新年会長挨拶

第49期会長 鈴木 實



新年明けましておめでとうございます。皆様には輝かしい新春を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

年末になりますと、その年の世相を漢字一文字で表す「今年の漢字」が発表されますが、2006年の「今年の漢字」は「命」だそうです。秋篠宮家の長男悠仁さまの誕生は、皇族での40年ぶりの皇位継承権のある男子ということで、「生まれた命」に注目が集まりましたが、一方、いじめに対する子供の自殺や、虐待死、飲酒運転事故など痛ましい事件が相次ぎ、「一つしかない命の重み、大切さを痛感した」ことが「命」が選ばれた理由とのことでした。

さて、上半期を振り返って見ますと、10月5日に佐藤ガバナーの公式訪問があり、例会では卓話をいただき、クラブ協議会では熱のこもったご指導を受けました。そして、さすが「ブランドクラブ」とお褒めの言葉を賜りました。ガバナーには、夜のお月見家族懇親会の方にも出席していただき、親しく懇親を深められました。「土浦クラブからガバナーを」という声が2年位前から高まっていた訳ですが、廣瀬昭雄会員が大きな決断をされたことにより、この12月にガバナーノミネーに選任されたことは誠に喜ばしいことであります。さらに次年度は、土浦ロータリークラブが創立50周年を迎えることとなります。式典の実行委員会の立ち上げを現在準備中であります。

最後になりましたが、1年半後のガバナー輩出クラブとして、あるいは創立50周年式典の成功のため、今後とも会員の皆様の絶大なるご協力をお願い申し上げ、新年のご挨拶に代えさせていただきます。

2. 卓話「植樹について」

田中 聡 会員

<ニッセイの森>

ニッセイでは、平成4年から植樹活動を行っています。「こんなに大量の紙を使用して仕事をさせてもらっているのだから、せめてそれと同量の木を地球に還そう」との、当時社長だった伊藤助成氏の強いリーダーシップによるものです。平成17年度までの14年間で116万本を植え、「ニッセイの森」は42都道府県の167箇所、約400ヘクタールに広がっています。この活動はニッセイの関係職員1人1人の募金から成り立っており、毎年約4万7千人の人々から2,500万円の寄付が集まっています。また、平成15年からは、これまで植えてきた「ニッセイの森」の木々を、美しく豊かな森に育てる「育樹活動(下草刈り、つる切り等)」にも積極的に取り組んでいます。



「ニッセイの森」づくりでは、森林の有する公益的機能の維持増進を図る観点から、水源の涵養機能等、公益性の高い地域を優先した森林づくりを行っています。また、林野庁より「ニッセイの森」の平成17年度の環境貢献度が評価され、「約5,000人分の年間排出CO₂を吸収、固定」、「約11万人分の年間飲料水を貯水、浄化」、「その他、洪水防止・土砂流出防止にも寄与」しているとの評価で、その評価総額は6千6百万円となっています。

「ニッセイの森」は、環境や生態系に配慮した多様な森づくりを目指し、森林資源の充実に努めています。そのため、針葉樹だけでなく、周辺植生や地形・土壌条件等にあわせて、ケヤキ・ブナ・カシ類等の広葉樹を積極的に取り入れた森づくりを行っています。これまでに植栽した樹種は、広葉樹42樹種、針葉樹13樹種にのびります。

<地球温暖化問題>

地球温暖化は、世界の抱える地球環境問題の中で最も深刻で、しかもその原因となっている温室効果ガスの排出は、経済活動のほとんどの分野にかかわるだけに、その対策に大きなコストのかかる問題です。この地球温暖化は、大気中の二酸化炭素、メタン、亜酸化窒素などの温室効果ガスの濃度が増えることによって起きますが、このうち最もウェイトを占めるのが二酸化炭素で、主に、石油、石炭、天然ガスなどの化石燃料によって排出されます。

0.4度～0.8度上昇し、海面は、10～20cm高くなったといわれています。現状維持程度の対策では、2010年には1990年に比べて1.4～5.8度の平均気温の上昇、平均海面は9～88cm上昇すると予測されています。

過去25年間の温暖化の趨勢を見ると、北半球における温暖化が赤道周辺地域よりも進んでいることがわかります。最近、北極協議会の委託で作成された報告に発表されましたが、これによりますと、北極地域の冬の気温は過去50年の間に約3～4度上昇し、また、過去30年の間に100万平方キロメートル(日本の面積の約3倍)の氷がなくなったと報告されています。この調子でいけば、今世紀末には北極グマの生存が危ぶまれます。他にも、ヒマラヤの氷が溶けており、ネパールでは、洪水の心配が高まっています。フランスワインの収穫時期が早まったり、オーストラリアでも影響が心配されています。アフリカの最高峰キリマンジャロの万年雪も2020年には消えてなくなると予想されています。

このような地球温暖化の結果、洪水や干ばつの激化、異常気象の増加、高潮被害を受ける人口の倍増、マラリアやコレラ患者の激増などが予想されています。国連環境計画によれば、自然災害による世界の経済的な損失は、1990年代は年平均約400億ドルであったが、2003年には約600億ドルまで上昇しています。

< 京都議定書 >

この地球温暖化にストップをかけるために、京都議定書では、先進国の温室効果ガス排出量について、法的拘束力のある数値目標が各国ごとに設定されました。先進国全体で、2008年から2012年までの約束期間に、削減基準年(1990年)の排出量から5.2%削減することが約束されました。我が国は6%(EUは8%)の削減を約束しています。対象ガスは二酸化炭素をはじめとする6ガスとなっています。

削減目標を達成するために、森林の炭素吸収・排出分(いわゆる吸収源)を目標達成に算入してもいいとしています。しかし、実際の森林の吸収・排出量は、木の種類、年齢によっても様々なうえ、各国の森林の定義や算出方法は様々で、また、科学的に解明されていない部分が多く、これを正確に試算することは困難です。そこで、森林、人為的、植林、再植林・森林減少の定義が決められました。また、森林管理など植林・再植林・森林減少以外の活動からの吸収量も第1約束期間(2008年～2012年)から算入できるようになりました。国ごとに上限が定められており、日本は6%のうち、3.1%を吸収原として認められています。日本政府は、6%の削減を達成するために2005年4月28日に「京都議定書達成計画」を策定し、あらゆる主体の参加の下に温室効果ガス削減対策を推進することとしています。

ちなみに、最近の議定書の動きとしましては、ケニアで開かれた京都議定書第2回締約国会合があります。最大の焦点である京都議定書の見直しでは、議長草案に対して中国やインドなどが反発し、交渉は難航しています。議定書の見直しについては、アフリカ諸国による提案をベースに、2008年に包括的な見直しを実施するなどとした議長草案が提示されました。しかし、議定書の見直しが途上国に対する温室効果ガスの排出削減義務の議論につながることを警戒する中国やインド、サウジアラビアが強く反発しました。途上国側からすれば、先進国が勝手に地球を汚しておいて、成長を成し遂げた今となっては地球環境が大事だから、先進国同様、途上国も地球環境保護の責任を分担しろというのは、あまりに身勝手な言い分ということになります。途上国はまさにこれから発展するのだから、自分たちの発展を阻害するような環境政策は受け入れられないというわけです。今回の会合でも見直し作業を終わらせるよう求めていて、途上国を排出削減の枠組みに取り込みたい先進国側に歩み寄りを見られないといわれています。一枚岩だった途上国間の路線対立も取りざたされており、見直しをめぐる交渉の行方は混沌としています。

< 世界の森林の現状 >

ところで、温暖化ガスの大半をしめる二酸化炭素の全世界の排出量は、2003年で年間252億トンとなっています。光合成など、森林・海によって、吸収できるのはその半分で、残りは大気中に蓄積されます。二酸化炭素排出量は、年々増加しており、大気中の二酸化炭素濃度を現在レベルに安定化するには、排出量を50～70%削減させることが必要です。

一方、現在の世界の森林面積は約40億ヘクタールで、全陸地面積の約30%を占めていますが、年間約700万ヘクタール減少しています。これは、増加している地域がある一方で、燃料用木材の過剰な採取、大規模な農地・プランテーションの開発、不適切な焼き畑農業の増加、森林火災などにより減少しているためです。特に、熱帯の天然林は、毎年1,400万ヘクタール失われており、これは、本州の3分の2の面積に相当します。

< 木材の使用状況 >

それでは、日本や世界で、木材はいったい何にどのくらい使われているのでしょうか？
世界で一年間に使われる木材を100本の丸太にたとえると、52本が薪や炭などの燃料用として使われています。このうち47本は開発途上地域で生産されています。建築や紙の材料など産業用に利用されているものは48本です。ちなみに日本で使われているのは、ほとんどが建築や紙の材料などの産業用で、およそ3本になります。

では、日本で一年間に利用される木材を100本の丸太にたとえると、どうなるでしょう？
日本の森林から20本、残りの80本は外国から輸入しており、実に8割が外国のものです。外材の内訳は、東南アジアから12本、カナダから11本、オーストラリアから10本、ロシアから9本、米国から8本、ヨーロッパから7本などとなっています。用途別に見ると、住宅の建築や家具などで52本、紙の原料などに43本使われています。紙の原料などに使われるもののうち、日本の森林で生産されたものは5本、残り38本は外国から輸入しています。住宅の建築や家具などに使われるもののうち国産のものは14本、外国産のものは38本です。紙の材料となる木材の9割、住宅などの材料となる木材の7割は外国から輸入しています。

では森林自体はどうなっているのでしょうか？

1990年の世界の森林面積を100平方メートル(10m×10m)にたとえると、2000年には97平方メートルに減っています。これは主にアフリカと南米の森林が減っているためで、逆にヨーロッパでは新規の植林などにより森林は増えています。また、アジアは、東南アジアを中心に減少傾向にあります。アジアの森林面積の3割を占める中国の植林の増加により全体には増加に転じています。

日本の森林はどうでしょう？

1990年の日本の森林を100平方メートルの土地と100本の樹木にたとえると、面積は2000年も変わらず100平方メートルです。一方、1990年には人工林に50本、天然林に50本あった樹木は、毎年、人工林で2本、天然林で0.4本ずつ増え、2000年には人工林71本、天然林54本、合計125本に増えています。主に人工林から毎年1本使っていますが、それでも、どんどん森林は育っています。

< 植樹・育樹の必要性 >

森林には、地球環境の保全に重要な、多面的な機能が認められています。二酸化炭素を吸収・固定する温暖化防止機能、湯水・洪水を防止、水質を浄化する水源涵養機能、土砂流出を防止する山地保全機能といったものです。上述のとおり、森林は、現状では年々減少しているため、植樹等による対応が必要になってきます。

人が苗を植えて育てていく森林を人工林といいますが、普通に行われている森林づくりでは、おとなの木になるまで約50年以上かかり、木の生長に応じて様々な手入れが必要です。これは生物多様性を確保するために、高木や低木、下草など多様な環境が必要となるからです。似たような種類や高さの木で構成された二次林などは、生物多様性が低くなるのがしばしばあります。ちなみに日本では、商業用木材の確保の観点から、針葉樹である杉だけが大量に植えられました。広葉樹は植林後、製品化できるまでに、早くても80年は必要であるといわれており、材質にムラが大きいという難点があります。針葉樹は30年で製材でき、比較的品質が一定で製品化が可能であるためです。

< 住宅に使われる木材 >

木造住宅にはどれだけの木材が使用されているのでしょうか？

木材使用量は住宅の規模、地域、工法によってもかなり差がありますが、ごく大まかに言えば、床面積平方メートル当たり、約0.2立方メートルの木材を使用しています。平均的な一般住宅を40坪(約130平方メートル)とすると、木材使用量は26立方メートルとなります。例えば、長さ3mで4寸(12cm)角の柱材であれば、600本必要ということになります。ただし、住宅は、柱だけでなく、梁、桁、板材などいろいろありますし、使用場所によって材の大きさも変わってきます。大まかに言えば、40坪の家では約100本の柱が必要です。

木造住宅は高いという認識があると思います。木造住宅の中で、木材の占める割合は、建売住宅では10%程度です。また一本数十万円とか最高級の木材を使った場合は別ですが、一般的に木をふんだんに使った家でも20%までです。例えば2,000万円の家を建てたとすると200万円ということになります。ふんだんに使った場合で400万円です。しかも、全体工事に占める木工事の割合はそのまた約3割となります。これはほぼ新車1台分と考えられます。家全体から見ればその程度のもので、木材については、高度成長時に木材輸入を解禁した結果、安い外材が流通するようになりました。当時は、国産材は外材に比べ高く、そのためシェアが小さくなってきましたが、今では、同等むしろ安いくらいになってきています。

< スギ花粉について >

花粉の多い年と少ない年があるのはなぜでしょうか？

スギ花粉の生産量は、前年の夏の気象条件と密接な関係があり、夏の日射量が多く、降水量が少ないほど翌春の花粉生産量が多くなる傾向があることが分かっています。このため、前年夏の気象条件によりスギ花粉の生産量は多い年と少ない年があります。

スギ花粉をなくすために、日本中のスギを伐採すればよいのでしょうか？

スギ林は、木材資源であると同時に、国土保全や地球温暖化防止、水源の涵養等の公益的機能をも有しています。これらの公益的機能を持続的に発揮させるためには、一時に伐採・更新することは好ましくありません。このため、花粉の少ない品種や広葉樹を含む多様な森林整備を進め、将来のスギ花粉生産量を少なくする対策に継続的に取り組むことが必要です。特に、地球温暖化防止の観点からは、スギは最も二酸化炭素の吸収量が多い樹種の一つです。

林野庁では、花粉のもととなる雄花の量が多い木と少ない木があることに着目し、平成14年度から、森林の公益的機能の著しい低下を招くことなく花粉発生量を効果的に縮減することを目的として、スギ・ヒノキ人工林における雄花の量に着目した抜き伐りに取り組んでいます。平成14年度から16年度までに主に都市周辺において、約2千ヘクタール実施しました。また、間伐の遅れた森林を解消し、健全で多様な機能を発揮する森林を育成するため、年間約30万ヘクタールの間伐を実施する「間伐等推進3カ年対策」を推進しており、この中で雄花の量が多いスギ林分の間伐など、花粉症対策にも資する森林施策を推進しています。

独立行政法人林木育種センターは、平成17年1月に花粉がまったく生産されない特性を持つ無花粉スギ「爽春」を新たに開発しました。爽春は普通のスギと同様に花粉をつけますが、その葯の中には花粉がまったく認められません。平成18年度からは、無花粉スギ等を短期間で普及させるため、組織培養の手法を用いた増殖に取り組んでいます。

3. 幹事報告

- ・ 出初め式、消防団新春の集まりには会長、幹事にて参加いたします。
- ・ 古河地区ローターアクト認証証伝達式の申込みが本日までとなっております。
- ・ 第2820ローターアクト地区大会（2/3,4開催）については申込みが12/28までとなっておりますが、当クラブとしましては本日までに対応いたしますので宜しくお願いいたします。
- ・ 週報の先週例会の報告にあります卓話の中で、光文事件についてありますが、「新御用邸で午後2時から枢密院の会議」は「午前2時」となりますので訂正させていただきます。

4. 委員会報告

米山奨学委員会

日本生命柏常総支社殿へ感謝状（米山功労法人）が贈られました。

米山功労者（メジャードナー、マルチプル）の皆さんへ感謝状が贈られました

「土浦RC忘年会」

12月21日（木）18：30より、「かねさ一の蔵」において盛大に忘年会を開催いたしました。



亥年会員紹介

吉川 國弘君（昭和10年）

青木 孝之君（昭和22年）

河合 隆君（昭和22年）



「ロータリーの友」1月号(ロータリー理解推進月間)読みどころ

キーワード 1) 21世紀は“多文化競生且つ共生の時代”

100年の歴史、168ヶ国、120万人のロータリアンの真価発揮

2) そこに日本文明を生かす

“敷島の 大和心を人問わば 朝日に匂う 山桜花” 本居信長

「横組み」

P1 (RI指定記事)ロータリーの根幹

P11 ロータリーのイメージ調査

P24~27 第35回ロータリーゾーン研究会

P33 地域が支える平泉の文化遺産

P34 国内外で活躍第2620地区インターアクター

P40 今後のRI国際大会、統計

P42 日本のロータリー

「縦組み」

P ~ ケータイをもったサル、今どきの若者たち(正高信男氏)

2006(H18)年11月東京大学創立130年記念事業第1回シンポジウムでも同様の投稿がなされていた。

P ~ 茶ごころを込めた日本料理を継承する(湯木尚治氏)

世代を超えた家族の絆と料理を通じた日本文化の継承に感動

P ~ 「X線CT」悪質商法に遭わないために「労働安全衛生」

P ~ 膝の子の離れしよりの夜寒かな

事急ぐ我となりしを嘆かずに、ただ老い故と妻は笑みをり

水田に適さぬ土地に落花生 なじみて千葉の名産となる

奥深い熊野の神秘無尽蔵

P 奉仕の理想のこころを学び実践するために

P 青少年の心に響く感動と体験を!

にこにこBOX

12/21 34,000円 累計 1,212,000円

鈴木会長 ~ 本年度も半分が過ぎました。あと半分ご協力をお願いします。

円城寺幹事 ~ 幹事として半期を終えることが出来、会員の皆さまのご協力に感謝いたします。

田中君 ~ 緊張の卓話無事終わりました。ありがとうございました。

川田君 ~ 米山功労者 メジャードナー感謝状を頂きました。

小倉君 ~ 上半期今年最後の例会とかけて、コップの半分の水とときます。そのこころは、ご想像におまかせします。

写真 ~ 中桐君 誕生祝 ~ 黒田代子様 結婚祝 ~ 小原君

メイクアップ

佐藤(12/14 土浦RAC)

出席報告

会員	欠席	出席	出席名簿	出席率
69名	12名	57名	12名	78.95%

誕生祝(1月)

会員

奥様

萩原 英彦君(7日)

堀越喜久枝様(4日)

磯山 安子様(15日)

中桐勝太郎君(14日)

坂本 恭子様(4日)

岩瀬 良子様(15日)

菊池 信子君(14日)

佐藤 ふく様(5日)

白田多美子様(16日)

平 堅次君(22日)

森内やす子様(6日)

川田 順子様(20日)

塚本 幸夫君(31日)

松浦 茂子様(7日)

辻 よし子様(25日)

宇田川幸子様(28日)

結婚記念祝

磯 充君・けい子様ご夫妻(8日) 飯山 孝之君・伊美子様ご夫妻(23日)

例会予告

1/18 会員卓話 「日本人とマグロ」 大槻 利夫会員

1/25 会員卓話 「定款細則について」 山本 和男会員



本日のメニュー

祝いばらすし

鴨雑煮椀

マンゴゼリー